

算の範囲内で引渡されるのであるが、坑および職場において当面の所要量をこえて保有する場合は「しもどし材料」として倉庫にれい入し、払出しの更正を行い原価計算を明確にするとともに、物品の管理の適正を期している。

(2) 坑木の整理 鉱業所で使用する坑木はたえず貯蔵をしておく必要があり、資材課長の業務基準においても、坑木の係を一般の現品とはべつに設けたのもこの主旨からである。坑木は坑木請求簿によって坑木係に請求し、資材課長は坑木払出整理票によって毎日払出を整理し、月末において使用した坑木について使用者から坑木領収書の提出を受け、坑木払出整理票と照合の上貯蔵品出納帳から払出のものであって、したがって坑木についての決算は月1回である。

5 産出炭の整理 炭鉱規程第3条の区分にしたがって輸送炭・売却炭・自家消費炭・工事経費消費炭・ピッチ練炭の加工用炭に区分し、選炭職場長が石炭日報を作成し、運炭課長および資材課長に提出する。この場合輸送炭については戸畑用品庫の第1貯蔵品に編入し、その他は炭鉱貯蔵品に編入の上払出しを行う。ただしピッチ練炭の加工用炭は貯蔵品に編入する以前に、支給材料として加工業者に引き渡し、製品(ピッチ練炭)は、輸送炭と同様に戸畑用品庫の第1貯蔵品に編入する。

石炭の受入価格は、昭和23年総理庁令第14号の鉱業原価計算要綱によって、一般鉱業者と同様の生産価格を算出して本社から通達し、この価格によって貯蔵品に編入する。

6 経費の整理

(1) 決算の手續 鉱業所では、坑および職場別に原価を算定するので、物品領収券による請求、もどし材料等は坑および職場別になされる。同様に払出しの場合もこれにもとづいて経費の発生箇所別になされる。すなわち物品費は坑直接費・坑間接費とに区分されるが、坑間接費についても、間接費箇所別比較表に計上されるので、伝票はすべて本場・病院・坑および職場ならびにその他経費発生箇所別に発行する。

(2) 値引きの整理 戸畑用品庫において受け入れた産出炭が、保証カロリーを割ったときは、借方炭鉱収入・貸方甲種貯蔵品として値引きの整理を行い、炭鉱収入を鉱業所につけ替えるとともに、貯蔵品価格改訂勘定によって貯蔵品出納帳の整理を行い、払出価格には影響させない。

(3) 用品割掛 ア 購入物品を直接炭鉱貯蔵品に受入する場合は、用品割掛を付加しない イ 鉱業所で調達した地方調達品を、工事経費に決算した場合の用品割掛は炭鉱収入とし、この率は資材局長が定める ウ 貯蔵品を売却した場合の帳簿価格と売却価格の差額、および貯蔵品の処分・亡き損の経費は、他の貯蔵品については営業外勘定で処理しているが、炭鉱貯蔵品の場合は、その経費を炭鉱勘定で処理するものとしている。(清水光利)

たんごかいりくこうつうあまのはしだてこうさくてつどう
丹後海陸交通天橋立鋼索鉄道

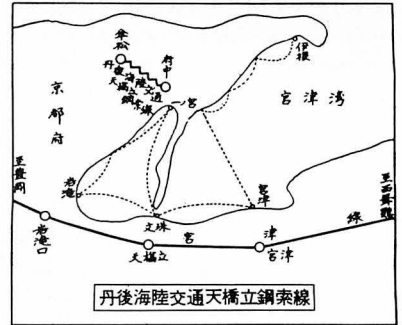
1 事業者の概要

名称 丹後海陸交通株式会社、本社 京都府宮津市宇新浜、資本金6,000万円、おもな事業 地方鉄道・旅客自動車運送(一般乗合435km、一般貸切、一般乗用)、旅客定期および貸切航路事業・鉄道従事員14人、保有車両 鋼索客車2両。

沿革 昭和19・2・14会社設立、自動車運送および航路事業を経営、同25年地方鉄道の免許を得て同26年営業開始。本鉄道は昭和2・8天橋立鋼索鉄道株式会社が開業し、同19・2企業整備のため撤去したものである。

2 地方鉄道線 国鉄宮津線天橋立駅に連絡、府中・傘松間

(京都府)0.4km 単線、動力電気、軌間1.067mの鋼索鉄道、昭和25・5・18免許、同26・8・12運輸開始、旅客運輸を目的とする。付近の天橋立は日本三景の1として著名。



3 運輸概況

年 度	昭 和 28	29	30
旅客輸送人員(千人)	328	375	414
人 キ ロ (千)	131	818	169
旅客収入(千円)	8,169	9,625	10,951
運輸雑収(〃)	125	155	178
収入合計(〃)	8,294	9,780	11,129
営業費(〃)	5,647	5,930	5,878
営業利益(〃)	2,648	3,850	5,250
営業係数(%)	68	61	50

(原 功)

たんしきさじょうそうち 単式鎖錠装置 (英)switch and lock movement 転轍(てんてつ)器転換ならびに鎖錠装置の一種で、転轍器転換鎖錠装置ともいっている。転轍器あるいは可動の轍又(てっさ)の転換と鎖錠を同一のてこによって操作する装置をいう。なお車両の通過中誤ってこを扱うことを防止するため、てっ查かんが併用される。ただし電気によるてっ查鎖錠装置が設けられている場所を除く。

単式鎖錠装置では転換鎖錠器を使用したもの(写真-1)と、エスケープクランクと転轍鎖錠器(エスケープブランジャー用)を併用したもの(写真-2)との2型式があって、後者をエスケープブランジャー装置ともいっている。どちらも原理は同じである。

主要構成部品は前者は、転換鎖錠器・同敷板・覆・密着調節かん・尖(せん)端かん・鎖錠かん・転轍減摩器・軌条間隔かん・直角クランク・ジョー類等である。後者はエスケープクランク・同敷板・覆・密着調節かん・尖端かん・鎖錠かん・転轍鎖錠器・同敷板・リンク・転轍減摩器・軌条間隔かん等とからなっており、てっ查かんが併用されるとストレートクランク・ジョー類・



単式鎖錠装置(エスケープクランク併用)